

株主 通信

2019年12月期

2019.1.1 ▶ 2019.3.31

GMOフィナンシャルHD

証券コード：7177

さらなる収益性の 改善に向け、 重点施策を着実に遂行

代表執行役社長
グループCEO

鬼頭 弘泰



当第1四半期の連結業績は、低調な相場環境を受けて、店頭FX等の店頭デリバティブ取引に係る収益や株式関連の収益が減少したことなどから、前年同期比で減収減益となりました。

一方、各商品の収益性の改善は進んでおり、また、足元の5月においては、外国為替や仮想通貨のボラティリティが上昇傾向で推移するなど、外部環境は回復してきています。2021年12月期の営業利益200億円の目標の実現に向けて、各事業において成し遂げるべき計画を着実に遂行していきます。

証券・FX事業においては、昨年、新たに設立した子会社のGMOクリックグローバルマーケットにおいて、個人向けFX取引で培ったノウハウを活かした海外の法人向けFX取引(BtoB)の実証実験に取り組んでいます(2020年の本格稼働を予定)。BtoBの活用によって、カバーコストの低減を図り、店頭FXの収益性をさらに向上させていきます。また、国内における認知の拡大とともにさらなる成長の見込めるCFDも好調で、各施策の効果により顧客基盤が拡大しています。今後の展開にご期待ください。

仮想通貨事業は、後発スタートながらも足元の国内シェアは着実に伸長しています。今年5月より、日本仮想通貨交換業協会が定める自主規制規則およびガイドラインに基づき、レバレッジ取引の倍率を順次引き下げていくため、短期的には取引の減少も予想されますが、サービスの利便性向上と収益性改善の取り組みにより、国内シェア・収益の拡大を目指します。

株主の皆様におかれましては、今後とも当社グループの事業への長期的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

▼第1四半期決算のポイント

低調なマーケットを背景に、
証券・FX事業の減収により減益

当第1四半期

営業収益

6,905 百万円
(前年同期比△17.3%)

営業利益

1,348 百万円
(前年同期比△47.9%)

経常利益

1,314 百万円
(前年同期比△48.9%)

親会社株主に帰属する四半期純利益

617 百万円
(前年同期比△65.4%)

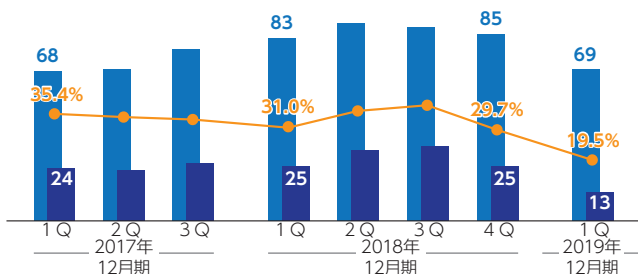
当第1四半期業績レビュー

証券・FX事業は、外国為替市場における年初の相場急変による店頭FXの一時的な収益性低下やボラティリティの低下を背景とする取引高の減少等により、店頭デリバティブ取引が低調に推移したほか、株式等委託売買代金の減少等により受入手数料や金融収益が減少し、営業収益は62.3億円(前年同期比△21.2%)、営業利益は14.9億円(同△54.5%)となりました。

仮想通貨事業は、仮想通貨のボラティリティが低水準で推移したことから取引高は減少したものの、各種施策の効果により収益性が改善し、営業収益は5.0億円(同+163.1%)、営業損失は1.8億円(前年同期は7.6億円の営業損失)となり、損失幅が縮小しました。

■ 四半期業績推移

(億円) ■ 営業収益 ■ 営業利益 ● 営業利益率



事業概況

証券・FX事業

当社グループは、主力商品である店頭FXに加え、新たな収益の柱に育てるべく、CFDの拡大に注力しています。他の金融商品に比べ、CFDの国内における認知度はまだ低く、マーケットの拡大が課題ですが、GMOクリック証券

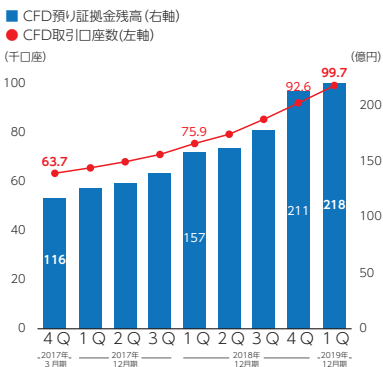
では、広告を中心に各種施策に取り組むことで、取引口座数・CFD預り証拠金残高を着実に伸ばし、顧客基盤を拡大しています。



投資のコンビニ CFD

世界中の金融資産へ投資ができるCFDはまさに「投資のコンビニ」。CFDの認知度向上・顧客層の裾野拡大を目指し、今夏より、積極的なプロモーションを展開していきます。今後の成長にご注目ください。

口座数・預り証拠金残高の推移



ほぼ24時間取引ができ

て、金・原油や株価指数、
米国・中国の個別株など

仮想通貨事業

2019年1-3月は、仮想通貨の価格の変動が少なく、取引は低調に推移しましたが、4月以降は仮想通貨の価格上昇に伴い、売買代金も増加し、GMOコインの国内売買代金シェア*1も上昇傾向で推移しています。

また、口座数も堅調に伸長し、本格サービス開始2年を前に口座数は25万口座*2を突破しました。サービスの利便性向上、収益性改善の取り組みを進めることで、成長を図っていきます。

GMOコイン



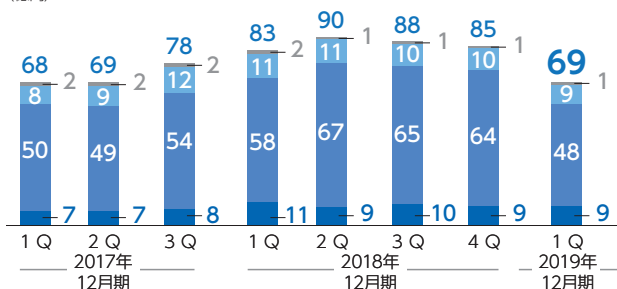
※1 当社推計値

※2 2019年4月末の口座数:252,665口座

四半期業績の推移

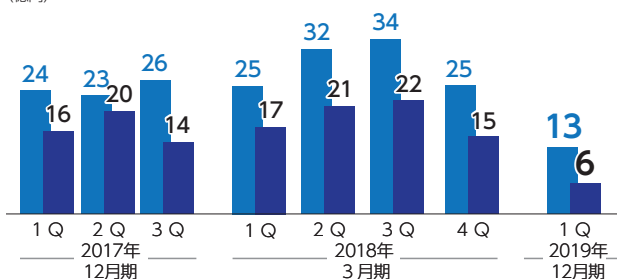
営業収益

■ 受入手数料 ■ トレーディング損益
■ 金融収益 ■ その他
(億円)



営業利益／親会社株主に帰属する四半期純利益

■ 営業利益 ■ 親会社株主に帰属する四半期純利益
(億円)



株主還元方針と配当の状況

当社は、株主に対する利益還元と内部留保の充実を総合的に勘案し、**親会社株主に帰属する当期純利益に対する配当性向50%を目途に、四半期ごとに配当することを目標**としています。

2019年12月期第1四半期末配当につきましては、上記方針に基づき1株当たり2.59円といたしました。

(単位:円)	1 Q	2 Q	3 Q	期末	年間
2018年12月期	7.46	8.98	9.54	6.27	32.25
2019年12月期	2.59	—	—	—	—

ホームページのご案内



<https://www.gmofh.com/>

月次開示情報や決算説明資料、各種開示資料等、タイムリーな情報提供に努めています。ぜひ、ご覧ください。

会社情報

(2019年3月31日現在)

会社概要

商 号 GMOフィナンシャルホールディングス株式会社
(GMO Financial Holdings, Inc.)

本店所在地 〒150-0031
東京都渋谷区桜丘町20-1 渋谷インフォスター

代 表 者 代表執行役社長 グループCEO 鬼頭 弘泰

事 業 内 容 金融商品取引業等を行うグループ会社の経営管理
ならびにこれに附帯する業務

設 立 2012年1月4日

資 本 金 680百万円

従 業 員 数 349名(連結)

株主メモ

上場証券取引所 東京証券取引所 JASDAQスタンダード

証 券 コ ー ド 7177 上 場 日 2015年4月1日

事 業 年 度 1月1日～12月31日 定時株主総会 毎年3月

定時株主総会基準日 12月31日 1単元の株式数 100株

剰余金の配当基準日 3月31日、6月30日、9月30日、12月31日

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

同 連 絡 先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1
郵送先:〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
TEL:0120-232-711(通話料無料)
受付時間:土・日・祝祭日等を除く平日9:00～17:00

各種事務手続き 株式に係る各種事務手続きの詳細につきましては、下記の三菱UFJ信託銀行株式会社のホームページをご参照ください。
<https://www.tr.mufg.jp/daikou/>
なお、証券会社の口座で株式を保有されている株主様の住所変更、配当金受取方法のご指定等のお手続きについては、お取引の証券会社へご連絡ください。

公 告 の 方 法 電子公告 公告URL:<https://www.gmofh.com/>
ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。